

公益社団法人 物理探査学会

令和5年度通常総会資料

日 時 令和5年5月31日(水) 13:00～14:40

場 所 早稲田大学西早稲田キャンパス 63 号館
東京都新宿区大久保3丁目4-1

- 総会次第
1. 開会の辞
 2. 会長挨拶
 3. 総会開始の宣言
 4. 議 事

決議事項

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 第1号議案 | 令和4年度事業報告及び決算報告承認の件 |
| 第2号議案 | 監事1名選任の件 |
| 第3号議案 | 外部監事の報酬に関わる定款・規程の改訂, 報酬変更の件 |
| 第4号議案 | 名誉会員推薦の件 |

報告事項

令和5年度事業計画及び予算について

(休 憩)

5. 令和4年度物理探査学会表彰
 - (1) 論文業績賞
 - (2) 優秀発表賞
 - (3) 永年在籍会員表彰
 - (4) 名誉会員表彰
6. 閉会の辞

第 1 号議案: 令和4年度事業報告及び決算報告承認の件

I. 令和 4 年度(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日) 事業報告

令和4年度は、本学会の目的である物理探査の学理及びその応用に係る技術の進歩、普及、並びに物理探査に携わる技術者の資質向上などを図るために、研究発表会やセミナーの開催、広報や表彰事業などの各種事業や研究会活動を活性化し、探査技術の普及促進にも注力してきました。

1. 学会事業活動

[1] 研究発表会の開催

(1) 第 146 回(2022 年春)学術講演会

- ・開催日 令和 4 年 6 月 7 日(火) ～ 6 月 9 日(木)
- ・開催場所 早稲田大学国際会議場
- ・開催方法 ハイブリット方式(現地とオンライン参加の併用)
- ・一般講演 口頭発表 24 件, ポスター発表 8 件
- ・参加者 166 名(現地:113 名 オンライン:53 名)

(2) 第 147 回(2022 年秋)学術講演会

- ・開催日 令和 4 年 11 月 16 日(水) ～ 11 月 18 日(金)
- ・開催場所 青森県弘前市 弘前市民会館
- ・開催方法 ハイブリット方式(現地とオンライン参加の併用)
- ・一般講演 口頭発表 54 件, ポスター発表 7 件
- ・参加者 127 名(現地 52 名 オンライン 74 名)

[2] 会誌、書籍の編集発行等の事業

(1) 和文会誌発刊

和文誌「物理探査」については、J-Stage に掲載しました(掲載後 2 年間は会員限定公開となっています)。しかしながら、ホームページ機能の不具合により、その閲覧において会員の方にご不便をおかけする状態が続いています(解消には、もうしばらく時間がかかる見込みです)。掲載された 1 年分の論文について、まとめたものを冊子として年度末に発行しました。

(2) 英文会誌発刊

豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」は電子版として年間 6 号を発行しています。

(3) 技術資料等の頒布

既存の以下の技術資料等の出版物を継続して頒布しました。

- ・物理探査ハンドブック増補改訂版: 冊子 13 冊, CD20 枚

[3] 研究開発、調査、コンソーシアム活動等の事業

(1) 研究会活動

令和4年度第1回地盤探査研究会を令和5年3月23日(木)に、「物性を探る」をテーマに、早稲田大学西早稲田キャンパスにおいて、ハイブリット方式により開催しました(参加者 58 名)。

(2) 委託事業

国立研究開発法人防災科学技術研究所から「地盤モデル構築のための国際標準化素案作成支援業務」を受注しました。

[4] 講座、セミナーの開催、関連学協会との協力等の事業

(1) 物理探査セミナー

- ・令和4年8月3日(水)～8月5日(金)にオンラインにて開催しました。
- ・参加者(3日間の延べ人数) : 105 名

(2) 高校へ出張セミナー

- ・実施日: 令和4年10月28日(土), 11月4日(土), 11月11日(土)
- ・場所 : 早稲田大学高等学院

(3) 関連学協会との連携・協力

① 国内関連学協会

(公社)日本地球惑星科学連合, (一社)資源・素材学会, (一社)日本リモートセンシング学会, 日本地熱学会, (公社)日本地震学会, (一社)日本応用地質学会, (公社)地盤工学会, (公社)計測自動制御学会, 石油技術協会, (一財)日本非破壊検査協会, (公社)日本地震工学会, (公社)農業農村工学会と講演会等で相互に協力しました。

② 地盤工学会

「地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会」では、(公社)地盤工学会の WG(地盤工学会 ISO/TC182 国内専門委員会の「広域における地盤工学特性の評価手法に関する WG」)に委員を派遣し、微動アレイ探査の国際規格(ISO24057)の制定に貢献しました。また、次年度以降に予定している表面波探査の国際標準化にむけた素案作成を行い、地盤工学会と共催した2月のWSで報告しました。

③ 地球惑星科学連合大会

令和4年5月22日から5月27日に開催された日本地球惑星連合大会に参加しました。空中計測, 浅層物理探査, 地震波伝播, 電磁探査国際セッションを共催しました。学会ブースを設営し, ポスター掲示, 物理探査ニュースの配布などを実施しました。

④ 海外関連学会

令和4年度においても, COVID-19の影響で, 下記関連国際学会への参加はとりやめました。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)
- ・米国物理探査学会(SEG)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)
- ・中国石油物理探査学会(SPG China)
- ・ベトナム物理探査学会(VGA)

・インドネシア物理探査学会(HAGI)

⑤ 韓国物理探査学会(KSEG)との学術講演会における相互派遣・中止

令和4年度においても双方の学術講演会に代表者を派遣することは COVID-19 の影響で中止しました。

⑥ SEG 等海外学会教育プログラムの開催支援

令和4年度は、国内において SEG Lecture(HL や DL)の開催はありませんでした。

(5) 技術者継続教育活動

令和4年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し、会員の技術者継続教育活動をサポートしました。

[5] 物理探査に係る広報活動事業

(1) 物理探査ニュース

「物理探査ニュース」No.54 から No.57 の4巻の発行を行い会員に配布しました。また、年度末には一般向けに2022年ハイライト(総集編)を発行しました。

(2) ホームページ

会員データベースの再構築や学会 HP の新サーバへの移行に向けた作業を開始し、ホームページの不具合は令和5年度中に解消の見込みです。

(3) 海外学会での講習会開催

日本の土木物理探査技術を海外で普及させることを目的として、令和5年3月6日～9日、台湾にて開催された第5回 Asia Pacific Meeting on Near Surface Geoscience & Engineering において、3月6日に SEGJ セミナーを実施しました。その前日(3月5日)には、現地の國立中山大學においてセミナーを開催いたしました。

[6] 物理探査学に係る研究、活動に対する表彰事業

令和4年度通常総会において、令和3年度物理探査学会表彰を行いました。

[6-1] 第62回(令和3年度)物理探査学会賞

(1) 論文業績賞

論文賞

・受賞者 : 山本 英和・齊藤 剛

対象論文 : 山本 英和・齊藤 剛(2020): 詳細震度分布と簡易微動アレイ探査による平均 S 波速度との関係ー岩手県大船度市における2003年宮城県沖の地震によるアンケート震度調査に基づいてー, 物理探査, 73巻, 149-167

事例研究賞

・受賞者 : 佐竹 海・井手 健斗・万沢 かりん・上田 匠・神宮司 元治・横田 俊之
小森 省吾

対象論文 : 佐竹 海・井手健斗・万沢かりん・上田 匠・神宮司元治・横田俊之・小森省吾 (2021): 無人地上車両 (UGV) を用いたマルチコイル型電磁探査システム開発, 物理探査, 74巻, 151-161

・受賞者 : 結城 洋一・齋藤 全史郎・城森 明

対象論文 : 結城洋一・新清 晃・富森さとし・齋藤全史郎・城森 明・城森敦善(2021):

ドローン空中電磁探査法による濃尾平野西濃地域の地質構造調査,
物理探査, 74 巻, 142-150

奨励賞

・受賞者 : 多良 賢二

対象論文 : 多良賢二・加藤政史・浅川栄一・芦寿一郎(2020): 深海曳航型ハイドロフォン
ケーブルを用いた高分解能音波探査による海底熱水鉱床探査,
物理探査, 73 巻, 14-22

(2) 優秀発表賞

最優秀発表賞

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催)

・受賞者 : 小西 千里 (応用地質(株))

対 象 : 稠密微動測定による H/V スペクトルを用いた表層地盤の分類

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

・受賞者 : 岡本 京祐 ((国)産業技術総合研究所)

対 象 : 微小地震探査による地熱井近傍の構造推定その2

優秀発表賞 <口頭発表>

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催)

・受賞者 : 内垣 友貴(九州大学)

対 象 : 内垣 友貴, 辻 健, 鶴山 尚大, 金森 洋史

氷が与えるレゴリスシミュラントの S 波速度への影響の検討

・受賞者 : 寺西 陽祐((株)地科科学総合研究所)

対 象 : 寺西 陽祐, 岡本 拓, 東中 基倫, 高井 克己, 笠谷 貴史, 後藤 忠徳

海洋 CSEM 探査技術の国内内製化に向けた取り組み

ー 2020 年度海洋 CSEM 実証試験を例としたノイズ低減処理ー

・受賞者: 桑井 康行 (早大)

対 象: 桑井 康行, 河合 将人, 宅間 晴史, 岡田拓己, 上田 匠, 中島 崇裕

水平多層構造における任意送受信配置および任意送信電流波形に対応した

電磁探査応答計算プログラムの開発

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

・受賞者 : 西野 玉城(早稲田大学)

対 象 : 西野 玉城, 上田 匠

深層ニューラルネットワークを用いた周波数領域空中電磁探査データ

逆解析の改良と実装

・受賞者 : 國政 光 (東京都立大学)

対 象 : 國政 光, 鳥取 稜平, 東 宏幸, 小田 義也

Transformer を用いた深層学習による地震波自動検測

ー八丈島臨時地震観測データへの適用ー

優秀発表賞 <ポスター発表>

① 第 144 回春季学術講演会(オンライン開催) オンライン開催のため対象者なし

② 第 145 回秋季学術講演会(サンポートホール高松・ハイブリッド開催)

・受賞者 : 荒巻 健(九州大学)

対 象 : 荒巻 健・池田 達紀・辻 健・山浦 悠貴

雑微動を用いた表面波トモグラフィによる地熱地域の 3 次元 S 波
速度構造

(3) 学会業績賞

学術業績賞 なし

運営功績賞 なし

[6-2] 第 62 回(令和 3 年度)永年貢献表彰

(1) 功労会員表彰 該当者なし

(2) 永年在籍会員表彰

① 在籍 30 年以上, 満 70 歳以上

杉山 長志, 横井 浩一, 高智 英二郎, 茂木 透, 金子 力, 須藤 公也, 岡嶋 眞一

香村 一夫, 稲垣 正晴, 稲谷 栄己

② 50 年在籍 賛助会員

株式会社阪神コンサルタンツ, ドリコ株式会社

③ 30 年在籍 賛助会員

株式会社ジオテック

(3) 名誉会員表彰

中野 修, 渡辺 文雄

[7] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るために, 学会業務の IT 化を継続的に推進すると共に, 学会ホームページの維持管理を行っております。尚, 本学会は令和 5 年をもって創立 75 周年を迎えることになり, 同年秋には創立 75 周年記念行事を開催する予定です。その開催に向けて「創立 75 周年記念行事実行委員会」を立ち上げ, 準備を開始しました。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

日時 令和 4 年 6 月 8 日(水) 15:20~16:50

場所 早稲田大学国際会議場

[2] 理事会

下記のとおり理事会を開催しました。

第 108 回理事会 令和 4 年 4 月 21 日 オンライン開催

臨時理事会 令和 4 年 6 月 8 日 早稲田大学国際会議場(オンライン併用)

第 109 回理事会 令和 4 年 7 月 26 日 オンライン開催

第 110 回理事会 令和 4 年 10 月 21 日 オンライン開催

第 111 回理事会 令和 5 年 1 月 26 日 オンライン開催

第 112 回理事会(臨時) 令和 5 年 3 月 27 日 オンライン開催

3. 会員状況

	令和4年3月末	令和5年3月末	増 減
名誉会員	12 名	13 名	1 名増
正会員	1109 名	1093 名	16 名減
(学生会員)	(79 名)	(76 名)	(3 名減)
賛助会員	99 社 205 口	99 社 203 口	2 口減

正会員数には()内の学生会員数を含む

以上

Ⅱ. 令和4年度決算報告

貸借対照表

令和5年3月31日現在

単位（円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,228,618	13,024,988	△ 1,796,370
未収金	0	4,867,890	△ 4,867,890
棚卸資産	2,023,922	2,362,080	△ 338,158
流動資産合計	13,252,540	20,254,958	△ 7,002,418
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産・基金	23,614,487	23,614,487	0
特定資産合計	23,614,487	23,614,487	0
(3) その他固定資産			
什器備品	115,500	0	115,500
減価償却累計額	△ 38,500	0	△ 38,500
敷金	660,000	660,000	0
その他固定資産合計	737,000	660,000	77,000
固定資産合計	24,351,487	24,274,487	77,000
資産合計	37,604,027	44,529,445	△ 6,925,418
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	160,894	185,244	△ 24,350
前受金	0	13,750	△ 13,750
前受会費	85,500	58,500	27,000
預り金	105,054	76,890	28,164
流動負債合計	351,448	334,384	17,064
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	351,448	334,384	17,064
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	37,252,579	44,195,061	△ 6,942,482
(うち特定資産への充当額)	23,614,487	23,614,487	0
正味財産合計	37,252,579	44,195,061	△ 6,942,482
負債及び正味財産合計	37,604,027	44,529,445	△ 6,925,418

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

単位(円)

科 目	当年度	昨年度	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	417	417	0
受 取 会 費	10,823,400	11,368,000	△ 544,600
正会員会費収入	6,723,400	7,128,000	△ 404,600
賛助会員会費収	4,100,000	6,655,500	△ 2,555,500
事 業 収 益	4,759,579	10,924,742	△ 6,165,163
開催事業収入	2,581,050	3,405,611	△ 824,561
受 取 投 稿 料	283,800	3,381,611	△ 3,097,811
頒布事業収入	1,398,629	1,915,731	△ 517,102
受 託 事 業	496,100	5,358,100	△ 4,862,000
受 取 補 助 金	365,000	569,870	△ 204,870
受 取 寄 付 金	1,195,800	906,800	289,000
雑 収 入	186,103	222,201	△ 36,098
経常収益計	17,330,299	23,992,030	△ 6,661,731
(2) 経常費用			0
事 業 費	21,275,741	23,489,272	△ 2,213,531
給 料 手 当	5,188,463	4,848,999	339,464
臨 時 雇 賃 金	1,196,900	1,010,000	186,900
退職給付費用	387,863	394,698	△ 6,835
福 利 厚 生 費	705,958	407,625	298,333
旅 費 交 通 費	1,341,341	699,169	642,172
会 議 費	339,365	363,461	△ 24,096
通 信 運 搬 費	1,016,264	743,532	272,732
減 価 償 却 費	38,500	0	38,500
消 耗 品 費	308,450	503,988	△ 195,538
印刷製本費	2,249,406	3,901,650	△ 1,652,244
光 熱 水 料 費	0	0	0
賃 借 料	5,326,233	4,625,179	701,054
保 険 料	30,528	6,842	23,686
諸 謝 金	330,506	501,512	△ 171,006
出 版 物 原 価	338,158	581,875	△ 243,717
支 払 負 担 金	174,345	170,280	4,065
表 彰 品 費	168,366	93,151	75,215
支 払 奨 励 金	10,000	10,000	0
支 払 手 数 料	243,203	221,235	21,968
租 税 公 課	3,402	2,467	935
委 託 費	1,822,262	4,314,031	△ 2,491,769
雑 費	56,228	89,578	△ 33,350
管 理 費	2,997,040	2,888,015	109,025
給 料 手 当	911,487	1,047,951	△ 136,464
臨 時 雇 賃 金	6,350	0	6,350
退職給付費用	68,137	85,302	△ 17,165
福 利 厚 生 費	124,019	88,095	35,924
旅 費 交 通 費	74,441	80,053	△ 5,612
会 議 費	6,254	5,815	439
通 信 運 搬 費	25,064	26,497	△ 1,433
消 耗 品 費	34,846	52,989	△ 18,143
印刷製本費	9,661	10,820	△ 1,159
光 熱 水 料 費	413,127	395,101	18,026
賃 借 料	1,169,201	913,821	255,380
保 険 料	5,362	1,478	3,884
支 払 手 数 料	34,824	39,027	△ 4,203
租 税 公 課	598	533	65
支 払 負 担 金	11,655	13,460	△ 1,805
委 託 費	96,890	114,368	△ 17,478
雑 費	5,124	12,705	△ 7,581
経常費用計	24,272,781	26,377,287	△ 2,104,506
当期経常増減額	-6,942,482	△ 2,385,257	△ 4,557,225
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-6,942,482	△ 2,385,257	△ 4,557,225
一般正味財産期首残高	44,195,061	46,580,546	△ 2,385,485
一般正味財産期末残高	37,252,579	44,195,061	△ 6,942,482
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	37,252,579	44,195,061	△ 6,942,482

正味財産増減計算書内訳表 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

単位(円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	417	0	417
受 取 会 費	8,134,040	2,689,360	10,823,400
正会員会費収入	4,034,040	2,689,360	6,723,400
賛助会員会費収	4,100,000	0	4,100,000
事 業 収 益	4,759,579	0	4,759,579
開催事業収入	2,581,050	0	2,581,050
受 取 投 稿 料	283,800	0	283,800
頒布事業収入	1,398,629	0	1,398,629
受 託 事 業	496,100	0	496,100
受 取 補 助 金	365,000	0	365,000
受 取 寄 付 金	1,140,000	55,800	1,195,800
雑 収 入	164,915	21,188	186,103
経常収益計	14,563,951	2,766,348	17,330,299
(2) 経常費用			
事 業 費	21,275,741	0	21,275,741
給 料 手 当	5,188,463	0	5,188,463
臨時雇賃金	1,196,900	0	1,196,900
退職給付費用	387,863	0	387,863
福利厚生費	705,958	0	705,958
旅費交通費	1,341,341	0	1,341,341
会 議 費	339,365	0	339,365
通信運搬費	1,016,264	0	1,016,264
減価償却費	38,500	0	38,500
消耗品費	308,450	0	308,450
印刷製本費	2,249,406	0	2,249,406
光熱水料費	0	0	0
賃 借 料	5,326,233	0	5,326,233
保 険 料	30,528	0	30,528
諸 謝 金	330,506	0	330,506
出版物原価	338,158	0	338,158
支払負担金	174,345	0	174,345
表彰品費	168,366	0	168,366
支払奨励金	10,000	0	10,000
支払手数料	243,203	0	243,203
租 税 公 課	3,402	0	3,402
委 託 費	1,822,262	0	1,822,262
雑 費	56,228	0	56,228
管 理 費	0	2,997,040	2,997,040
給 料 手 当	0	911,487	911,487
臨時雇賃金	0	6,350	6,350
退職給付費用	0	68,137	68,137
福利厚生費	0	124,019	124,019
旅費交通費	0	74,441	74,441
会 議 費	0	6,254	6,254
通信運搬費	0	25,064	25,064
消耗品費	0	34,846	34,846
印刷製本費	0	9,661	9,661
光熱水料費	0	413,127	413,127
賃 借 料	0	1,169,201	1,169,201
保 険 料	0	5,362	5,362
支払手数料	0	34,824	34,824
租 税 公 課	0	598	598
支払負担金	0	11,655	11,655
委 託 費	0	96,890	96,890
雑 費	0	5,124	5,124
経常費用計	21,275,741	2,997,040	24,272,781
当期経常増減額	-6,711,790	-230,692	-6,942,482
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-6,711,790	-230,692	-6,942,482
一般正味財産期首残高	24,634,293	19,560,768	44,195,061
一般正味財産期末残高	17,922,503	19,330,076	37,252,579
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	17,922,503	19,330,076	37,252,579

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産の評価基準方法は、先入先出法による原価法を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
定額法を採用している。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税は税込み処理を行っている。

2. 特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
公益目的運用特定資産	21,000,000	0	0	21,000,000
技術普及積立資産	793,487	0	0	793,487
周年事業積立資産	1,821,000	0	0	1,821,000
合 計	23,614,487	0	0	23,614,487

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等は、一般正味財産からの充当額である。

4. 担保に供している資産

該当なし。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし

7. 重要な後発事象

該当なし

財産目録

令和 5 年 3 月 31 日現在

単位(円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金 額
(流動資産)			
	現金	手元保管	6,303
		普通預金	11,206,393
		三菱東京UFJ・大森支店	10,630,979
		三井住友・大森支店	50,072
		三井住友・浅草橋支店	2,816
		三菱東京UFJ・大森支店	497,853
		三菱東京UFJ・大森支店	24,673
		郵便貯金	15,922
		岩本郵便・普通	1,814
		岩本郵便・通常	8,248
		岩本郵便・通常	5,860
	棚卸資産 60 周年記念出版物	書籍在庫品を倉庫で保管	2,023,922
			2,023,922
流動資産合計			13,252,540
(固定資産)			
特定資産			
	特定資産・基金		23,614,487
	公益目的運用特定資		21,000,000
	技術普及積立資産		793,487
	周年事業積立資産		1,821,000
その他固定資産			
	什器備品		115,500
	減価償却累計額		△ 38,500
	敷金		660,000
固定資産合計			24,351,487
資産合計			37,604,027
(流動負債)			
	未払金		160,894
	前受会費		85,500
	預り金		105,054
流動負債合計			351,448
(固定負債)			
固定負債合計			0
負債合計			351,448
正味財産			37,252,579

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載のとおりである。


監 査 報 告 書

公益社団法人 物理探査学会

会長 鈴木 敬一 殿

令和 5 年 4 月 14 日

公益社団法人 物理探査学会

監 事 大貫 良太 

監 事 三 木 茂 

私たち監事は、当法人の令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの令和 4 年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事会に出席して理事および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以 上

第2号議案: 監事1名選任の件

当学会の監事1名(会員)が本総会をもって辞任することになり、定款、物理探査学会規則、並びに役員候補者選考規程に基づき、令和5年4月1日から令和5年4月15日の間、監事候補者の公募を実施しました。その結果、監事候補者1名の推薦があり、役員候補者選考委員会にて資格審査を行い、資格要件を満たしていることを確認しました。当学会の理事会は、役員候補者選考委員会からの答申を受け、本監事候補者の監事選任案を本総会に附議することを決議しました。尚、本選任案は当学会の監事全員の同意を得ております。

本総会では、下記の監事候補者の監事への選任についてお諮りします。
選任された監事の任期は、令和6年度の通常総会において次期役員が改選されるまでの1年間となります。

記

監事候補者1名

会 員 相澤 隆生（一般社団法人全国地質調査業協会連合会）

以上

第3号議案:外部監事の報酬に係る定款及び規程の改訂, 報酬変更の件

定款第 33 条及び役員の報酬・退職金に関する規程を以下のように変更すると共に, 同規程に定める報酬額を年額 60,000 円とすることを提案いたします。

定款の変更

定款：改定後	現行
<p>(役員の報酬)</p> <p>第 33 条 役員は、無報酬とする。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、外部監事には、<u>別に定める役員</u>の報酬・退職金に関する規程に従って、<u>報酬</u>を支給することができる。</p>	<p>(役員の報酬)</p> <p>第 33 条 役員は、無報酬とする。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、外部監事には総会において別に定める役員の報酬・退職金に関する規程に従って、理事会の決議を経て報酬を支給することができる。</p>

役員の報酬・退職金に関する規程

規程：改定後	現行
<p>(目的)</p> <p>第 1 条 本規程は、定款第 33 条の役員の報酬に関して必要な事項を定めるものである。</p> <p>(役員の範囲)</p> <p>第 2 条 役員とは、定款第 27 条、第 28 条で定める社員総会で選任された理事および監事をいう。</p> <p>(役員の報酬)</p> <p>第 3 条 定款第 33 条書き役員は、その任期中報酬を受けず、退任時において退職金は支給されない。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、外部監事には、<u>総会の決議を経て以下の</u>報酬を支給することができる。</p> <p>年額 60,000 円</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第 4 条 本規程の報酬額の改廃は、総会の議決を経て行うものとする。</p>	<p>(目的)</p> <p>第 1 条 本規程は、定款第 33 条の役員の報酬に関して必要な事項を定めるものである。</p> <p>(役員の範囲)</p> <p>第 2 条 役員とは、定款第 27 条、第 28 条で定める社員総会で選任された理事および監事をいう。</p> <p>(役員の報酬)</p> <p>第 3 条 定款第 33 条書き役員は、その任期中報酬を受けず、退任時において退職金は支給されない。</p> <p>2 前項の規定に関わらず、外部監事には、理事会の決議を経て以下の範囲内で報酬を支給することができる。</p> <p>年額 60,000 円</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第 4 条 本規程の報酬額の改廃は、総会の議決を経て行うものとする。</p>

以上

第4号議案: 名誉会員推薦の件

令和 5 年 4 月に開催された第 113 回理事会の決議により, 下記の通り, 茂木透氏を名誉会員に推薦します。

記

名誉会員候補 1 名

永年在籍会員 茂木 透 氏

推薦理由

茂木透氏は 30 年以上当学会に在籍され, 2012 年度から 2013 年度にかけて当学会の会長を務められました。会長在籍時には, 統合物理探査の推進, 統合物理探査調査研究委員会の立ち上げ, 建設分野における物理探査手法の標準化, 関係学協会との連携にご尽力されました。その後も, 2016 年には物理探査ハンドブック増補改訂版の編纂を中心となってとりまとめられました。2017 年には Exploration Geophysics 誌, 第 45 巻に掲載された「Three-dimensional resistivity of grounded electrical-source airborne transient electromagnetic (GREATEM) survey data from the Nojima Fault, Awaji Island, south-east Japan」が物理探査学会論文賞に選ばれました。2022 年には幻冬舎ルネッサンス新書として「見えない地下を診る～驚異の物理探査」を新書版という一般の方にも手に取りやすい形で, 物理探査技術を世の中に紹介しました。出版するにあたっては, 著者の一人として貢献されています。

以上のことから, 当学会表彰規程別表 1 に記載されている名誉会員の選考基準「物理探査の発展に功労, 功績が極めて顕著であり, かつ下記の条件のいずれかを満たした者を対象とする」のうち「(1)会長の経験者で, 満年齢 70 歳以上の正会員」に該当しますので, 茂木透氏を名誉会員として推薦いたします。

以上

報告事項：令和 5 年度事業計画について

I. 令和 5 年度事業計画

令和 5 年度は、これまで実施してきた研究開発奨励促進事業、探査技術の普及促進事業、広報活動、研究活動及び表彰等の事業を継続・発展させるとともに会員へのサービスの拡大並びに一般社会への貢献にこれまで以上に力を注いで学会活動の充実を図ります。加えて、物理探査学会 75 周年記念行事を 10 月に実施いたします。

1. 学会事業活動

[1] 研究発表会の開催

物理探査学会に係る研究開発の奨励促進を図るために以下の事業を実施する。

(1) 第 148 回学術講演会

- ・開催日 令和 5 年 5 月 30 日(火)～ 6 月 1 日(木)
- ・開催場所 早稲田大学西早稲田キャンパス

(2) 第 149 回学術講演会

- ・開催日 令和 5 年 10 月 11 日(水)～10 月 13 日(金)
- ・開催場所 早稲田大学国際会議場

尚、本学術講演会は、75 周年記念行事の一環として実施する。

[2] 会誌、書籍の編集発行等の事業

(1) 和文会誌発刊

和文誌「物理探査」は J-Stage から論文を閲覧するようになっている。ただし、少数部数ではあるが、今年度も昨年度 1 月から今年度 12 月末までの論文をまとめた冊子を発行し、希望者には有償で販売する。

(2) 英文会誌発刊

豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同で出版する英文誌「Exploration Geophysics」について、電子版を 6 号発行する。

(3) 技術資料等の頒布

以下に示す既存の技術資料等の出版物を継続して頒布する。

- ・会誌「物理探査」DVD (第 1 巻～第 60 巻)
- ・学術講演会論文集 DVD (第 43 回～第 118 回)
- ・国際シンポジウム論文集 DVD (第 1 回～第 8 回)
- ・学術講演会論文集(冊子, CD)
- ・物理探査ハンドブック増補改訂版(冊子, CD)
- ・物理探査ハンドブック第三版 令和 5 年度下半期から頒布予定

[3] 研究開発、調査、コンソーシアム活動等の事業

(1) 研究会活動

- ・ドローン物理探査研究会
- ・地盤探査研究会
- ・電気探査研究会
- ・地震防災研究会
- ・地盤調査のための物理探査法標準化検討委員会

[4] 講座、セミナーの開催、関連学協会との協力等の事業

(1) 物理探査セミナー

- ・開催日 令和5年7月(予定)
- ・開催場所 (未定)

(2) ワンデーセミナー

- ・開催日 未定
- ・開催場所 首都圏(会場型とオンライン配信のハイブリッド方式)

(3) キャンパスビジット

- ・コロナ禍の状況を見ながら開催について検討する。
- 開催場所は、リクエストを考慮し決定(オンライン形式も考慮)

(4) 関連学協会との連携・協力

① 国内関連学協会

(公社)日本地球惑星科学連合、(一社)資源・素材学会、(一社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(公社)日本地震学会、(一社)日本応用地質学会、(公社)地盤工学会、(公社)計測自動制御学会、(公社)土木学会、(一社)全国地質調査業協会連合会、石油技術協会、(一社)日本非破壊検査協会、(公社)日本地震工学会と講演会、セミナー等で相互に協力する。

② 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星連合大会 2023 年大会(JpGU Meeting 2023)は、これまでと同様セッション提案などで協力していく。

③ 海外関連学会

下記関連国際学会の講演会・年次総会に参加して国際交流を深めると共に、国際レベルの物理探査技術を会誌、ホームページ等を通じて紹介する。

- ・欧州物理探査学会(EAGE)
- ・米国物理探査学会(SEG)
- ・環境土木物理探査学会(EEGS)
- ・豪州物理探査学会(ASEG)
- ・韓国物理探査学会(KSEG)
- ・中国石油物理探査学会(SPG China)
- ・ベトナム物理探査学会(VGA)
- ・インドネシア物理探査学会(HAGI)

④ SEG 教育プログラムの開催支援

海外の関連学会 SEG が主催し、日本国内で実施する物理探査技術の教育・普及活動に対して本年度も参加者の募集、会場の運営等、その支援を行う。本年度は、以下の通り、第 148 回学術講演会に付帯して DISC(Distinguished Instructor Short Course)を開催する。

日時: 令和5年6月2日(金)

場所: 早稲田大学西早稲田キャンパス

(5) 技術者継続教育活動

令和5年度も加盟している各学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続し、会員の技術者継続教育活動をサポートする。

[5] 物理探査に係る広報活動事業

(1) 物理探査ニュース

物理探査に係る広報活動事業の一環として、物理探査ニュース(No.58~No.61)の4巻の発行を行い、会員に配布するとともに物理探査に関係する機関に広く無償で配布する。また、一般向けに2023年ハイライト(総集編)の発行を行う。

(2) ホームページ

学会ホームページを一新し、利便性の向上を図るとともに、WEBを通じて学会活動の広報及び会員相互の情報共有の活性化を図る。

- (3) 海外学会での講習会開催
実施予定なし。

[6] 物理探査学に係る研究、活動に対する表彰事業
令和5年度において、以下の表彰等を行う。

[6-1] 物理探査学会賞

(1) 物理探査学会賞・論文業績賞

①論文賞、事例研究賞

会誌に発表された論説・論文・短報の中から特に優秀なものに物理探査学会論文賞を、ケーススタディ・技術報告の中から特に優秀なものに同事例研究賞を、また、探査技術の進歩に寄与あるいは著しい探査成果をあげた業績の中から特に優秀なものに同業績賞を授与する。

② 物理探査学会奨励賞

若手会員の活動を評価・支援するべく奨励賞を授与する。

(2) 学術講演会等における物理探査学会賞・優秀発表賞

学術講演会等の活性化と技術の向上を図るため、最優秀発表賞および35歳以下の若手研究者・技術者を対象として優秀発表賞を授与する。

(3) 物理探査学会賞・学術業績賞

探査技術の進歩に寄与した者、あるいは物理探査について優れた業績をあげたものから、特に優秀なものについて授与する。

(4) 物理探査学会賞・運営功績賞

運営発展に特段の功績があった会員あるいは団体に運営功績賞を授与する。

[6-2] 永年貢献表彰

(1) 永年在籍会員表彰

在籍30年かつ満70歳を超える正会員、及び在籍30年に達した賛助会員と50年に達した賛助会員に授与する。

(2) 名誉会員表彰

満70歳を超え会長の経験者または物理探査に関する学術、技術の発展に大きな貢献があった会員、あるいは会員歴30年以上でかつ10年以上本学会の役員を勤め学会の運営発展、学術・技術貢献、学会発展に貢献があった会員に授与する。

(3) 功労会員表彰

永年にわたり本学会の運営発展に貢献し、表彰を授与される年度末の時点で満年齢55歳以上の正会員で、本学会の理事、または各委員会委員長を通算10年以上務めた者、あるいは、本学会の各委員会委員を通算15年以上務めた者に、5年ごとに開催される創立行事記念式典にて授与する。

[7] 記念行事の開催

75周年記念行事を以下の通り実施する。

- ・開催日 令和5年10月11日(水)～同年10月13日(金)
- ・開催場所 早稲田大学国際会議場

[8] 国際標準化に関する活動

令和5年度から3年間、公益社団法人地盤工学会と共同で、「表面波探査手法に関する国際標準化」活動として、表面波探査のISO化を目指す。本活動は、経済産業省の「戦略的国際標準化加速事業」の予算にて実施する予定である。

[9] その他目的を達成するために必要な事業

学会の活性化を図るため継続して学会業務のIT化を推進すると共に、学会ホームページの維持管理

を行う。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

令和5年5月31日(水)、早稲田大学西早稲田キャンパスにてハイブリッドで開催する。

[2] 理事会

令和5年度中に4回開催する。

[3] 運営幹事会

令和5年度中に必要に応じて開催する。

Ⅱ. 令和5年度収支予算

単位(円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	2,000	0	2,000
受 取 会 費	8,795,400	3,063,600	11,859,000
正会員会費収入	4,595,400	3,063,600	7,659,000
賛助会員会費収	4,200,000	0	4,200,000
事 業 収 益	21,093,000	0	21,093,000
開催事業収入	5,874,000	0	5,874,000
受取投稿料	250,000	0	250,000
頒布事業収入	13,467,000	0	13,467,000
受託事業	1,500,000	0	1,500,000
受取補助金	65,000	0	65,000
受取寄付金	1,665,000	0	1,665,000
雑 収 入	280,000	0	280,000
経常収益計	31,900,400	3,063,600	34,964,000
(2) 経常費用			
事 業 費	31,900,400	0	31,900,400
給 料 手 当	5,199,600	0	5,199,600
臨時雇賃金	422,500	0	422,500
退職給付費用	408,300	0	408,300
福利厚生費	601,300	0	601,400
旅費交通費	2,327,800	0	2,327,800
会 議 費	1,851,000	0	1,851,000
通信運搬費	725,000	0	725,100
減価償却費	794,000	0	794,000
消 耗 品 費	178,600	0	178,600
印刷製本費	2,294,900	0	2,294,900
光熱水料費	36,900	0	36,900
賃 借 料	6,703,000	0	6,703,000
保 険 料	40,000	0	40,000
諸 謝 金	627,000	0	627,000
出版物原価	5,693,000	0	5,693,000
支払負担金	198,100	0	198,200
表 彰 品 費	170,000	0	170,000
支払手数料	163,600	0	163,600
租 税 公 課	11,100	0	11,100
委 託 費	2,718,600	0	2,718,600
雑 費	736,100	0	736,100
管 理 費	0	3,063,300	3,063,600
給 料 手 当	0	913,400	913,400
臨時雇賃金	0	10,500	10,500
退職給付費用	0	71,700	71,700
福利厚生費	0	105,600	105,600
旅費交通費	0	5,200	5,200
会 議 費	0	9,000	9,000
通信運搬費	0	14,900	14,900
消 耗 品 費	0	22,400	22,400
印刷製本費	0	6,100	6,100
光熱水料費	0	548,100	548,100
賃 借 料	0	1,188,000	1,188,000
保 険 料	0	7,000	7,000
支払手数料	0	22,400	22,400
租 税 公 課	0	1900	1,900
支払負担金	0	15800	15,800
委 託 費	0	97400	97,400
雑 費	0	23900	23,900
経常費用計	31,900,400	3,063,600	34,964,000
評価損益調整前当期増減額	0	0	0

令和4年度 公益社団法人物理探査学会表彰

第 63 回(令和4年度)物理探査学会賞

(1) 論文業績賞

論文賞

ー 該当者なし

事例研究賞

- ・受賞者 : 小西 千里・鈴木 晴彦・林宏一
- ・対象論文 : 小西 千里・鈴木 晴彦・濱田 俊介・林 宏一(2022):市街地・住宅地における不規則配置の 3 次元微動アレイ探査, 物理探査, 75, 21-37.

奨励賞

- ・受賞者 : 折田 まりな・池田 達紀
- ・対象論文 : 折田 まりな・池田 達紀・辻 健(2021):月面探査に向けた地震アレイの小型化:アポロの微動データを用いた可探深度の検討, 物理探査, 74, 79-91.

(2) 優秀発表賞

ー最優秀発表賞

① 第 146 回春季学術講演会(早稲田大学国際会議場/ハイブリット)

- ・受賞者 : 笠原 順三(一般財団法人エンジニアリング協会)
- ・対 象 : 笠原 順三, 羽佐田 葉子, 大沼 寛, 三ヶ田 均, 藤瀬 吉博:
秋田県八幡平澄川地熱フィールドにおける地熱探査

② 第 147 回秋季学術講演会(弘前市民会館/ハイブリッド)

- ・受賞者 : 柏原 功治(石油資源開発株式会社)
- ・対 象 : 柏原 功治, 長野 優羽:
岩石物理モデルに基づくインデンテーション試験データの解釈 ~CCS のための遮蔽層評価に向けて~

ー優秀発表賞 <口頭発表>

① 第 146 回春季学術講演会(早稲田大学国際会議場/ハイブリット)

- ・受賞者 : 児玉 匡史(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- ・対 象 : 児玉 匡史, 横田 俊之, 松島 潤, 田中 宏幸, 金 政浩, 岡本 直也, 芝 洋斗:
ミュオグラフィと弾性波探査とのジョイントインバージョンに関する検討

② 第 147 回秋季学術講演会(弘前市民会館/ハイブリッド)

- ・受賞者 : 二宮 啓(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- ・対 象 : 二宮 啓, 池田 達紀, 辻 健:
複数モードの表面波を用いた関東盆地の 3 次元 S 波速度構造の推定
- ・受賞者 : 重光 勇太郎(京都大学)
- ・対 象 : 重光 勇太郎, 石塚 師也, 林 為人:

実観測に向けた FMCW SAR 搭載ドローンのシミュレーションの開発とその応用

・受賞者：中山 貴隆（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構）

・対象：中山 貴隆, 石鍋 祥平, 石川 和明, 石丸 卓哉:

CNN を用いた震探相分類の検討

・受賞者：Bonan Li（東京大学）

・対象：Bonan Li, Jun Matsushima:

A Temperature-dependent Rock Physics Model for Partially Frozen Sediments

一優秀発表賞 <ポスター発表>

① 第 146 回春季学術講演会：該当者なし

② 第 147 回秋季学術講演会：該当者なし

(3) 学会業績賞

学術業績賞：該当者なし

運営功績賞：該当者なし

(4) 永年貢献表彰

一永年在籍会員表彰

① 在籍 30 年以上かつ満 70 歳以上(12 名)

岩元 久信, 加野 直巳, 深沢 晋治, 駒澤 正夫, 畠山 秀喜, 新谷 恒章, 中田 晴弥,
三塚 隆, 東 宏幸, 寺島 芳明, 桂 郁雄, 佐々木 進

② 本年度末にて 50 年在籍賛助会員

該当なし

③ 本年度末にて 30 年在籍賛助会員(1 社)

JX 金属株式会社

一名誉会員表彰

茂木 透

